



第1次大村市アウトドア・パークデザイン(案) (野岳湖公園リニューアルプラン)

～ Let's enjoy outdoor playgrounds ! ～



令和5年9月
大村市

目次

1. はじめに	・・・P2
(1) これまでの経緯	
(2) 大村市アウトドア・ランドデザインを踏まえて	
2. 位置付け	・・・P5
(1) 対象公園の選定	
(2) 公園施設の概要	
3. 計画のコンセプト	・・・P9
4. コンセプトを実現する3つの取組	・・・P10
5. 事業スキームの方向性	・・・P15

1. はじめに

大村市では、観光振興のための施策・事業実施の総合的な指針として「大村市観光交流都市づくり計画（2016 - 2025）」を策定し、四季をとおして自然と歴史と人がふれあう観光交流都市を将来像に掲げ、本市の観光を持続的かつ効果的に推進していくための取り組みを進めています。

そのような中、全国では、性別や世代を問わずに楽しむことのできる、地域資源を有効に活用したアウトドアアクティビティ（アウトドアスポーツ等）の人气に着目し、それを軸とした滞在型観光（アウトドアスポーツツーリズム）による地域活性化が展開されています。

これにより、来訪者だけでなく、市民もアウトドアを楽しめる環境を整備することで、市民の健康増進効果、市外からのアウトドア愛好家の移住・定住の促進など、さらなる地域活性化の効果が期待されます。

本アウトドア・パークデザインは、アウトドアアクティビティを展開する拠点として、「公園」を中心としたエリアに着目し、「公園」のポテンシャルを活かし、アウトドアを楽しめる環境整備を行うことで、さらに魅力ある施設としていくための方向性や様々な取組を取りまとめたものであり、今後の実施に向けては、さらなる精査を行っていくものです。

(1) これまでの経緯

- ・(株)モンベルと包括連携協定を締結（平成31年4月）

【目的】

大村市の自然を活かしたアウトドア活動の推進や市の魅力発信、防災意識向上に向けた取り組みを通じ、地域の活性化を図ることを目的とする。

【大村市とモンベルの包括連携協定締結事項】

- ①自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関する事項
- ②子どもたちの生き抜いていく力の育成に関する事項
- ③自然体験の促進による健康増進に関する事項
- ④防災意識と災害対応力の向上に関する事項
- ⑤地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関する事項
- ⑥農林水産業の活性化に関する事項
- ⑦高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関する事項



(1) これまでの経緯 2

・(株)ネイチュアエンタープライズにアウトドアスポーツツーリズムに関する調査・企画立案を業務委託（令和2年1月）

【目的】




大村市内のアウトドアスポーツツーリズムに関する課題を見極め、専門的な知見から企画立案を受けることで、本市が有する豊かな自然資源を活かした、新たな観光資源の構築を図る。

【業務内容】

- ①地域の現状、課題等の抽出・分析
- ②地域特性・資源を活用した「(アウトドア) スポーツツーリズム」の検討・提案
- ③施設整備等の検討・提案
- ④アウトドアアクティビティの検討・提案
- ⑤「大村市アウトドアグランドデザイン」の作成

(2) 大村市アウトドア・グランドデザインを踏まえて

市内には多数の魅力的な資源があり、アウトドアスポーツツーリズムを楽しみながらそれらの資源を満喫できる環境の充実により、さらなる地域活性化に繋げられる可能性があると考えます。

大村市アウトドアグランドデザイン【概要版】					
背景	<p>大村市の観光における課題 <大村市観光交流都市づくり計画(2016年3月)より抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 海や山など豊かな観光資源、歴史的資源が十分に生かされていない ■ 観光資源を結ぶ二次交通の整備と魅力的な観光コースが整っていない ■ 四季を通して観光できる施設・場所が少ない ■ 日帰り観光客が8割を超え、滞在型観光につながるメニューが少ない ■ 観光客に対するおもてなしの意識が不足している ■ 広域観光の拠点とするため、他自治体との連携が整っていない ■ 観光地としての認知や誘客のための情報発信力が弱い 				
目的	<p>豊かな自然や地域資源を生かしたアウトドアアクティビティの振興 アウトドアアクティビティを軸とした滞在型観光(アウトドアスポーツツーリズム)の推進 大村市民のアウトドア活動の促進</p> <div style="text-align: right; color: white; font-size: 2em; font-weight: bold;">➔</div> <div style="text-align: right; color: white; font-size: 1.5em; font-weight: bold;">大村市アウトドア グランドデザイン</div>				
具 体 的 な 取 り 組 み	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #90c060; color: white; padding: 5px;"> 1. アウトドア・地域資源の磨き上げ ■ 大村市の魅力あるアウトドアフィールド、アクティビティの開拓 ■ 地域資源を融合したルート、ストーリーに沿った周遊ルートの開発 ■ アウトドア体験プログラムの充実 (登山・トレッキング、サイクリング、マウンテンバイク、クライミング、カヤック、シャワークライミング、自然観察、農業体験など) <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">地域の魅力を底上げ</div> </td> <td style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px;"> 2. フィールド整備・拠点施設の整備 ■ フィールド整備(標識整備、山岳トイレ、登山屐、バイクラック・工具) ■ 二次交通の充実、レンタルサービス ■ 既存施設への協力を呼びかけ地域全体での連携を強化 ■ アウトドアスポーツツーリズム拠点となる施設を整備 野岳湖公園、森園公園、萱瀬ダムの機能強化 <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">滞在型観光拠点</div> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 5px;"> 3. 受け入れ体制の整備・人材育成 ■ アウトドアスポーツツーリズムの統括組織 行政・観光・アクティビティ関連事業者が一体となった組織作り ■ 地域の「おもてなし」意識の醸成、インバウンドへの対応 ■ 人材育成(ガイド、コンシェルジュ) <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">持続的な展開</div> </td> <td style="background-color: #8080c0; color: white; padding: 5px;"> 4. プロモーション(情報発信) ■ アウトドアアクティビティやガイドツアーに関する情報の集約、発信 ■ アウトドア愛好家への情報発信 ■ マスコミ向け情報発信 <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">+モンベルとの連携 +JAPAN ECO TRACKの活用</div> </td> </tr> </table>	1. アウトドア・地域資源の磨き上げ ■ 大村市の魅力あるアウトドアフィールド、アクティビティの開拓 ■ 地域資源を融合したルート、ストーリーに沿った周遊ルートの開発 ■ アウトドア体験プログラムの充実 (登山・トレッキング、サイクリング、マウンテンバイク、クライミング、カヤック、シャワークライミング、自然観察、農業体験など) <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">地域の魅力を底上げ</div>	2. フィールド整備・拠点施設の整備 ■ フィールド整備(標識整備、山岳トイレ、登山屐、バイクラック・工具) ■ 二次交通の充実、レンタルサービス ■ 既存施設への協力を呼びかけ地域全体での連携を強化 ■ アウトドアスポーツツーリズム拠点となる施設を整備 野岳湖公園、森園公園、萱瀬ダムの機能強化 <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">滞在型観光拠点</div>	3. 受け入れ体制の整備・人材育成 ■ アウトドアスポーツツーリズムの統括組織 行政・観光・アクティビティ関連事業者が一体となった組織作り ■ 地域の「おもてなし」意識の醸成、インバウンドへの対応 ■ 人材育成(ガイド、コンシェルジュ) <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">持続的な展開</div>	4. プロモーション(情報発信) ■ アウトドアアクティビティやガイドツアーに関する情報の集約、発信 ■ アウトドア愛好家への情報発信 ■ マスコミ向け情報発信 <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">+モンベルとの連携 +JAPAN ECO TRACKの活用</div>
1. アウトドア・地域資源の磨き上げ ■ 大村市の魅力あるアウトドアフィールド、アクティビティの開拓 ■ 地域資源を融合したルート、ストーリーに沿った周遊ルートの開発 ■ アウトドア体験プログラムの充実 (登山・トレッキング、サイクリング、マウンテンバイク、クライミング、カヤック、シャワークライミング、自然観察、農業体験など) <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">地域の魅力を底上げ</div>	2. フィールド整備・拠点施設の整備 ■ フィールド整備(標識整備、山岳トイレ、登山屐、バイクラック・工具) ■ 二次交通の充実、レンタルサービス ■ 既存施設への協力を呼びかけ地域全体での連携を強化 ■ アウトドアスポーツツーリズム拠点となる施設を整備 野岳湖公園、森園公園、萱瀬ダムの機能強化 <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">滞在型観光拠点</div>				
3. 受け入れ体制の整備・人材育成 ■ アウトドアスポーツツーリズムの統括組織 行政・観光・アクティビティ関連事業者が一体となった組織作り ■ 地域の「おもてなし」意識の醸成、インバウンドへの対応 ■ 人材育成(ガイド、コンシェルジュ) <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">持続的な展開</div>	4. プロモーション(情報発信) ■ アウトドアアクティビティやガイドツアーに関する情報の集約、発信 ■ アウトドア愛好家への情報発信 ■ マスコミ向け情報発信 <div style="text-align: right; border: 1px solid white; padding: 2px; font-size: 0.8em;">+モンベルとの連携 +JAPAN ECO TRACKの活用</div>				
効 果	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #90c060; color: white; padding: 5px;"> 来訪者・地域住民のアウトドア活動の促進 ○ アウトドアスポーツツーリズムによる来訪者の増加 ○ 地域住民自らアウトドアを楽しむまちの実現 国内外との交流人口の拡大 アウトドア愛好家の移住・定住の促進  </td> <td style="background-color: #90c060; color: white; padding: 5px; text-align: center; vertical-align: middle; font-size: 3em; font-weight: bold;">+</td> <td style="background-color: #90c060; color: white; padding: 5px;"> アウトドア活動に期待できる効果の実現(モンベルとの包括連携協定) ① 自然体験の促進による環境保全意識の向上 ② 子どもたちの生き抜いてく力の育成 ③ 自然体験の促進による健康増進 ④ 防災意識と災害対応力の向上 ⑤ 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化 ⑥ 農林水産業の活性化 ⑦ 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進 </td> </tr> </table>	来訪者・地域住民のアウトドア活動の促進 ○ アウトドアスポーツツーリズムによる来訪者の増加 ○ 地域住民自らアウトドアを楽しむまちの実現 国内外との交流人口の拡大 アウトドア愛好家の移住・定住の促進 	+	アウトドア活動に期待できる効果の実現(モンベルとの包括連携協定) ① 自然体験の促進による環境保全意識の向上 ② 子どもたちの生き抜いてく力の育成 ③ 自然体験の促進による健康増進 ④ 防災意識と災害対応力の向上 ⑤ 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化 ⑥ 農林水産業の活性化 ⑦ 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進	
来訪者・地域住民のアウトドア活動の促進 ○ アウトドアスポーツツーリズムによる来訪者の増加 ○ 地域住民自らアウトドアを楽しむまちの実現 国内外との交流人口の拡大 アウトドア愛好家の移住・定住の促進 	+	アウトドア活動に期待できる効果の実現(モンベルとの包括連携協定) ① 自然体験の促進による環境保全意識の向上 ② 子どもたちの生き抜いてく力の育成 ③ 自然体験の促進による健康増進 ④ 防災意識と災害対応力の向上 ⑤ 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化 ⑥ 農林水産業の活性化 ⑦ 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進			

【基本的なエリアの設定】（大村市アウトドア・ランドデザインから抜粋）

● 野岳湖エリア

「野岳湖エリア」は、敷地内でキャンプやカヤック、サイクリングなどのアウトドアアクティビティを総合的に満喫できる「野岳湖公園」と、周辺には郡岳やクライミングスポットなどのアウトドアフィールドを有することから、特にエントリー層やファミリー層の拠点として活用することができます。ここを発着点または中継地点として、周辺フィールドや他エリアを巡るルートを設定するとともに、レンタルサイクル機能の整備、登山口へのアクセス改善等の整備を行うことで、来訪者の利便性を向上させます。また、既存のキャンプサイトの改修や、野岳湖の湖面を利用可能な状態に再整備することで、1年を通じて手軽に、そして快適にアウトドア体験をすることができるエリアとなります。

● 多良山系エリア

「多良山系エリア」は、黒木渓谷を中心に、その周囲を取り囲む多良山系を巡るエリアです。路面整備など自転車でのアクセス性向上を図ることで、他のエリアとの周遊性を高めることが可能となります。また、登山道における標識整備や登山客の輸送手段の拡充を図ることにより、利用者の利便性が向上します。

● 大村湾・史跡エリア

「大村湾・史跡エリア」は、大村純忠史跡公園や本経寺などのキリシタン史跡のほか、大村湾や湾内に浮かぶ臼島を含むエリアです。本エリアは市街地のイメージがある一方、大村湾でのカヤック・SUP体験やキリシタン史跡を自転車で巡るサイクリングルートなど、様々なアウトドアアクティビティの提案が可能です。また、長崎空港、JR大村駅、大村IC、さらには2022年開通予定の九州新幹線新大村駅（仮称）を含むことから、エリアの中心に位置する森園公園や大村公園を活用することで、年間を通して来訪者が多様なアウトドアアクティビティを手軽に楽しめる、アウトドアスポーツツーリズムの起点となる可能性を秘めたエリアです。

<大村市のアウトドアスポーツツーリズム拠点エリア>（大村市アウトドア・ランドデザインから抜粋）



2. 位置付け

「第1次大村市アウトドア・パークデザイン」は、本市の最上位計画である「第5次大村市総合計画」及び「大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の将来像の理念である「～行きたい、働きたい、住み続けたい～しあわせ 実感都市大村」の実現に向けて、観光面の個別計画である「大村市観光交流都市づくり計画」の推進と、アウトドアアクティビティを新たな観光資源として捉えた「大村市アウトドアランドデザイン」を踏まえて、アウトドアアクティビティを活用した公園中心観光エリアの拠点整備の方針として策定します。

(1) 対象公園の選定

「野岳湖エリア」は、周辺に郡岳やクライミングスポットなどのアウトドアフィールドがあり、その拠点となる「野岳湖公園」は、自然が豊富で、キャンプ場やトリム遊具、広場などアウトドアアクティビティ施設も有し、市内外から多くの方に利用されています。

しかしながら、供用開始から44年が経過し、老朽化が著しく、早急に施設の更新が必要であり、その際に、オートキャンプ場への改修など、ニーズに合わせた転用が、他の施設と比較して容易となっています。以上のことから、第1次整備エリアとして、「野岳湖公園」を選定します。

対象施設	野岳湖公園
所在地	大村市東野岳町 1097 番地 1 ほか
面積	31.2ha
経緯	昭和33年：多良岳県立自然公園に指定 面積 6,543ha 昭和54年：供用開始 平成9年度から平成15年度：農村総合整備補助事業（大村北東部地区）により再整備（施設拡充）。
設置年次	・炊事棟（東サイト）：昭和47年 ・バンガロー（東サイト）：昭和53年 ・トリム広場：昭和62年 ・ロザモタ広場：平成4年 ・儀太夫記念館：平成11年 ・水辺の広場：平成14年
法令上の制限	都市計画法：都市計画区域外 自然公園法：県立自然公園 多良岳県立公園（普通地域） 文化財保護法：野岳遺跡

※野岳湖公園は、敷地約31ヘクタールの広さで、多良岳県立自然公園区域内にあり、その中心となる野岳湖は、1661年（寛文元年）捕鯨で財を成したと言われる、深澤儀太夫が1年7か月の歳月をかけて完成した、周囲3キロの人工湖です。この深澤儀太夫とは、九州捕鯨の草分けと言われる、捕鯨で財を築きましたが、これを大村藩の財政や社会事業に貢献し、灌漑の便をはかり干ばつから領地を守った功績は、今でも高く評価されています。

(2) 公園施設の概要

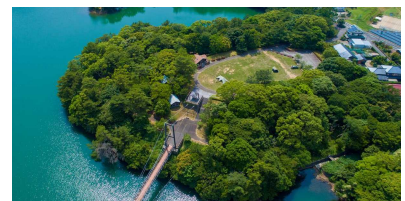
野岳湖公園内には、キャンプ場（テント、バンガロー）、儀太夫記念館、ロザ・モタ広場、水辺の広場、トリム広場などがあり、カップル、ご家族、友人同士、サークル、会社、レクリエーション及び観光など、様々なシチュエーションで楽しめます。

さらに、アクティビティとして、ハイキング、トレッキング、サイクリング、アスレチック、バードウォッチング、広場、子ども遊具などを楽しむことができ、また、管理棟、炊事棟、トイレ、温水シャワー、自動販売機、野外炉、夜間照明、駐車場も完備していますので、充実感のある本格的なキャンプやバーベキューを楽しむことができます。

施設の概要

■キャンプ場 1.8ha

宿泊はバンガロー（5棟）が、テントサイトは、東サイト（約25張）と中央サイト（約15張）があり、湖畔や森の中のキャンプを体験できます。また、炊事棟も完備しており、日帰りのバーベキューも楽しむことができます。



キャンプ場（東サイト）

■儀太夫記念館 400㎡

多目的室、休憩室、和室、調理室があり、地域コミュニティーの場として利用されており、様々な地域活動が行われています。また、深澤儀太夫やその子孫の歴史、野岳湖の成り立ちなどを展示したブースも設置しており、悠久の歴史を知ることができます。



儀太夫記念館

■ロザ・モタ広場 0.6ha

マラソンで有名なロザ・モタ選手が1990年の「おおむらハイウェイロードレース」で滞在したときに、野岳湖畔の周囲を毎日走っていたことからロザ・モタ広場と呼ばれています。ロザ・モタ選手の足型や本人直筆のメッセージを刻んだレリーフなどがあります。



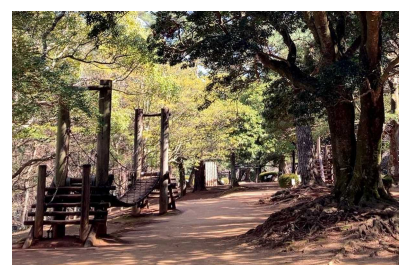
ロザ・モタ広場

■水辺の広場 1.4ha

広々とした芝生の中心に湖へと流れる水路があり、水車も設置しています。

■トリム広場 0.5ha

自然に囲まれ広々としたトリム広場で、木製のフィールドアスレチックが11種類あり、親子で体を動かすのに最適なアクティビティです。



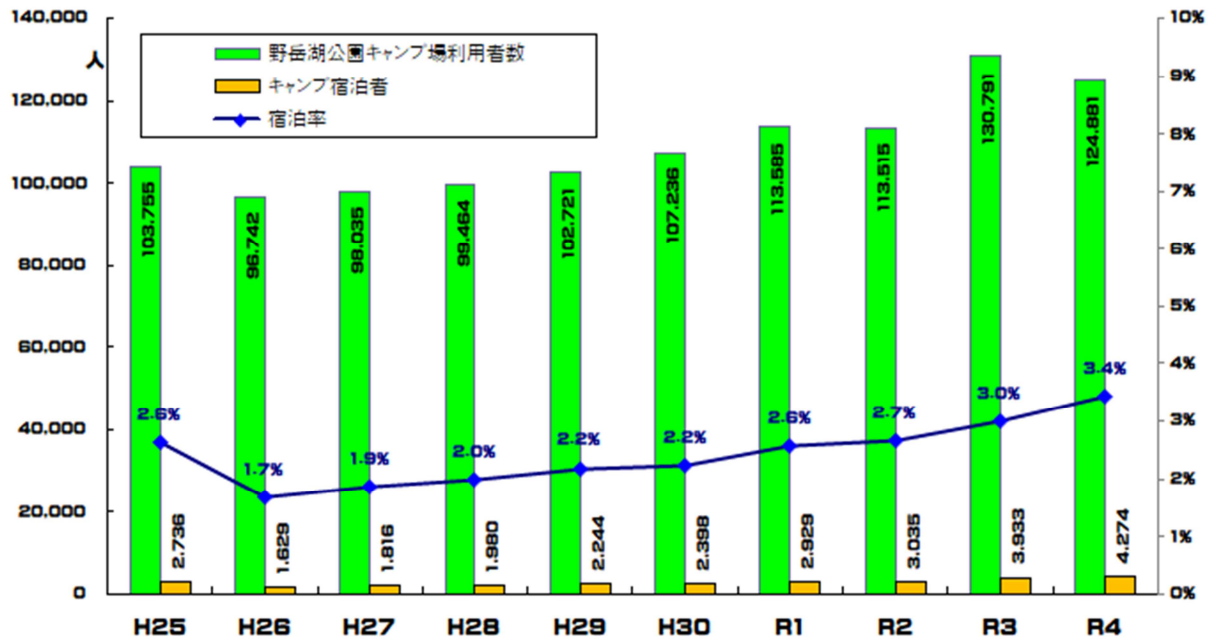
トリム広場

■憩いの広場 0.5ha ■その他（湖面等） 26.36ha

施設の利用状況

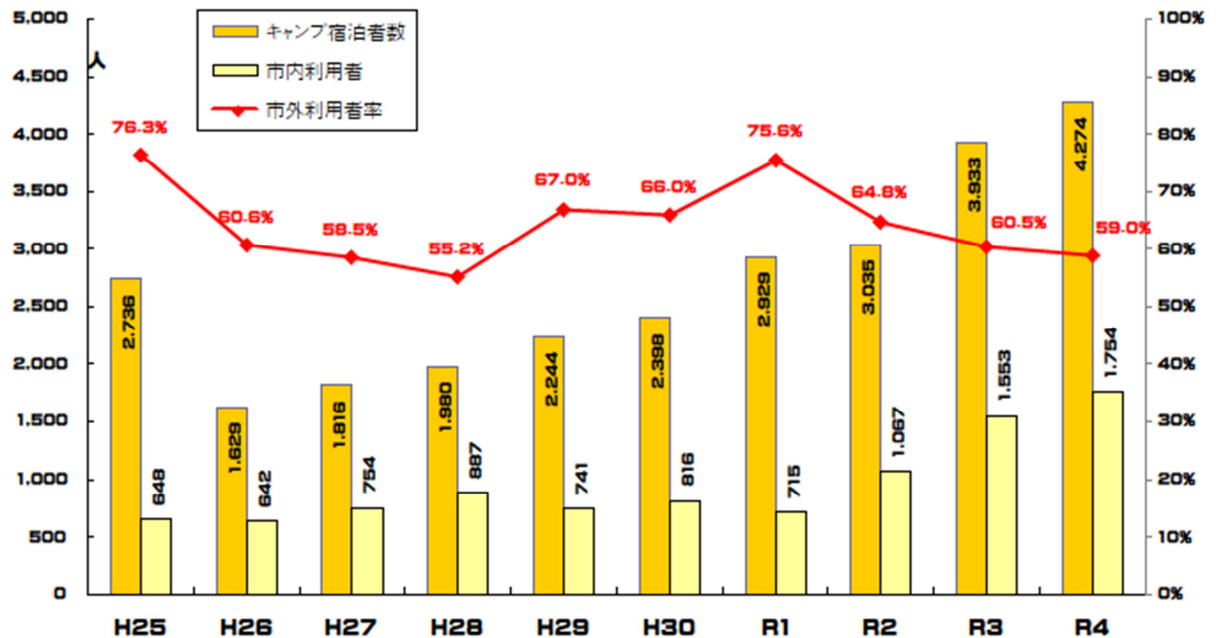
■ 利用者の推移

【キャンプ場利用者数の推移】



キャンプ場利用者の約97%が日帰り客！

【宿泊者の市内・市外利用者数の推移】



宿泊者の半数以上が市外から来訪！

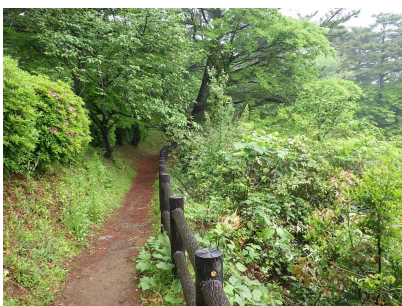
施設の現状と課題

■施設の老朽化

野岳湖公園は供用開始から44年、東サイトや南サイト等の再整備から26年が経過し、各施設の老朽化が進んでいます。また、テントサイトに向かう園路の一部では、車椅子用の園路が整備されていないなど、ユニバーサルデザインの視点からも施設の更新が必要です。



バンガロー



園路



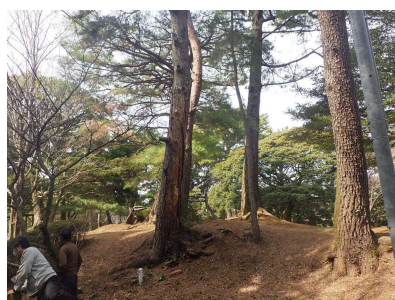
ウッドデッキ

■未活用フィールド

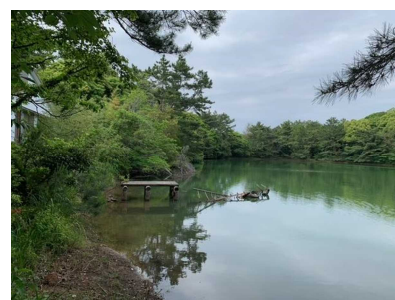
憩いの広場の園地や隣接する森林、湖面など、野岳湖公園や周辺エリアには、さらなる魅力向上の可能性を秘めたフィールドがありますが、十分に活かすことができておりません。



憩いの広場



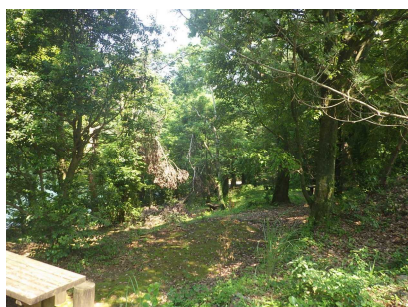
森林



湖面

■多様化するニーズとの乖離

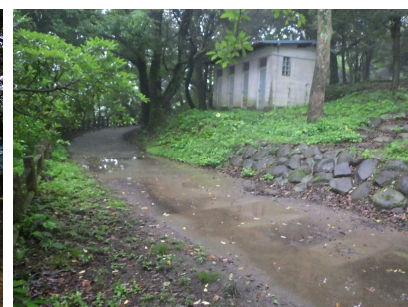
施設の機能や設備は供用開始時や再整備時から大きく変わっていないため、キャンピングカーを利用したオートキャンプや2ルームテントが張れる区画が整備されていない、イベント開催時の宿泊機能が不足している、トレッキング拠点としての施設（コインシャワー等）が不足しているなど、多様化するニーズに対応できておらず、宿泊者が少ない状況となっています。



東サイト



中央サイト



シャワー棟

3. 計画のコンセプト

本市が有する豊かな自然資源を活かし、アウトドアアクティビティを新たな観光資源として捉えた「アウトドア・スポーツ・ツーリズム」を推進し、野岳湖公園を魅力的な滞在型観光拠点とするために、「遊ぶ」、「泊まる」、「つながる」の3つを充実させることにより、「九州の行楽地」として選択していただけるような空間となることを目指します。

○「遊ぶ」を充実。

市民満足度調査等の結果によると、公園や観光関連には、休日に家族で過ごすことができる大きな公園やレジャー施設が充実していないとの意見があるとともに、子育てしやすいまちづくりなどの重要度が高くなっています。

市内から野岳湖公園に向かうルートにある食を中心とした農業交流拠点施設には、年間約45万人が来訪しており、市内外からの観光の拠点となっています。

このようなことを踏まえ、野岳湖公園および周辺エリアにおいて、エリア特有の資源を活用したアウトドア施設の整備やアクティビティの発掘を行い、**集客機能**の充実を目指します。

○「泊まる」を充実。

本市の観光動向の現状と課題において、日帰り観光客が圧倒的に多く、宿泊客数は県内でも下位に位置しています。野岳湖公園においても、来園者（年間）約12万人の内、宿泊者は約4千人で、キャンプ場利用者約97%が日帰りとなっていることから、宿泊施設としての魅力が不足していることが分かります。さらには、現在はキャンプスタイルも多様化しており、利用者のニーズに対応できていないことが要因のひとつとも考えられます。

そこで、アウトドアアクティビティを楽しむ来訪者の滞在時間延長のためにも、様々なニーズに応じることができる**宿泊機能**の充実を目指します。

○「つながる」を充実。

アクティビティを楽しむ来訪者の利便性を高めるために、標識整備やレンタルサービスの充実を図るとともに、既存の観光施設や飲食店、農業、漁業関係者など、地域全体での連携強化が必要です。

また、二次交通の充実など、市内に点在する観光拠点をつなげる必要もあります。

そこで、観光拠点を結ぶ広域的なルートやイベントの開発など、アクティビティプレイヤーの目線に立って、ソフトとハードの両面から、つながる機能の充実を目指します。

4. コンセプトの実現に向けた3つの取組

○取組1 地域資源を最大限に活かしたアウトドア・リゾートの拠点づくり

野岳湖エリアの自然環境や多種多様な地域資源を活かし、来訪者が休息でき、余暇活動の場として滞在できる、魅力ある環境づくりを行います。

○取組2 アウトドア・プレイグラウンドとしての賑わいの創出

自然体験や食を活かしたイベントの実施や、より集客効果の高い民間活力の導入など、アウトドア・プレイグラウンドとしての新たな賑わいの創出を目指します。

○取組3 アウトドア・スポーツを活用した地域活性化

広域的なアウトドア・スポーツを開発し、その拠点としてイベント等を開催することで、地域住民のアウトドア・スポーツに対する理解や関心、来訪者との交流を通じた地域の魅力の再認識など、地域全体でアウトドア・スポーツを盛り上げていく機運を高め、地域活性化へと波及していくよう地域に密着したアウトドア・スポーツ・ツーリズムを推進します。



○取組1 地域資源を最大限に活かしたアウトドア・リゾートの拠点づくり

○既存施設の再整備

導入機能	具体例
オートキャンプ場	既存の駐車場スペースをリノベーションし、オートキャンプ場の機能を追加する。
ユニバーサルトイレ	老朽化した既存トイレの改修、ユニバーサル化
ユニバーサル園路	老朽化した既存園路の改修、ユニバーサル化
トリム遊具	老朽化したフィールドアスレチックをリニューアルし、子ども達の賑わいを創出する。
ウォーキングコース	新たなコースの設定、距離標の設置
サイクリングコース	自転車通行空間の整備、バイクラックの設置
駐車場	老朽化した既存施設の改修、有料化の検討

新たな機能の検討	具体例
森のロッジ	森の中のロッジをコンセプトに既存施設をリノベーションし、機能が充実した施設として魅力向上を図る。また宿泊機能（宿泊者数）の強化を図る。
湖畔のロッジ	湖畔のロッジをコンセプトに既存施設をリノベーションし、機能が充実した施設として魅力向上を図る。また宿泊機能（宿泊者数）の強化を図る。
ドギーキャンプサイト	ペットと一緒に宿泊できるサイトの設置など、様々な利用者ニーズに対応できるよう整備する。
アクティビティ拠点設備	老朽化した既存施設の改修、ロッカールームやコインシャワーの追加
儀太夫記念館	ビジターセンター機能や全天候型遊戯設備の追加
管理事務所	ビジターセンター、カフェ、地産品の物販などの便益機能の追加



オートキャンプ場
(引用元：北茨城市)



機能が充実したキャンプサイト
(引用元：那珂川市)



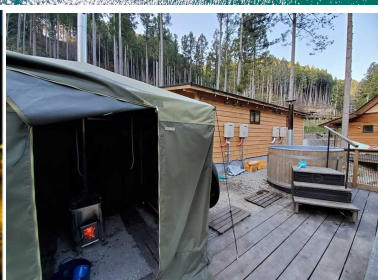
ドギーキャンプサイト
(引用元：那珂川市)

○野岳湖公園の価値向上

新たな機能の検討	具体例
ブランディング	湖面を見渡せる眺望や森の中から眺める星空、四季折々の自然の魅力を空間として演出するなど、野岳湖公園の魅力の向上を図る。
サイン	公園内外の各施設へ誘導を行うための案内板設置
休息施設	アウトドアサウナや温浴施設等の休息できる施設の導入
回遊設備	次世代モビリティ等の導入により、多様なニーズに対応できる回遊機能を確保する。
Wi-Fi 環境	公園内であれば Wi-Fi を無料で利用できる設備の新設（アクセスポイントの整備）
レンタル設備	キャンプ用品（テント等）やサイクリング用自転車、BBQ セットなどの備品の導入
EV 充電設備	EV 車に対応した充電設備の導入
エネルギー設備	薪ストーブや熱利用などの ECO エネルギーを利用した設備を導入し、循環型社会の構築や社会学習の場としての価値向上を図る。



ブランディング（引用元：那珂川市）



休息施設イメージ（引用元：喜多川キャンプベース）



回遊設備イメージ

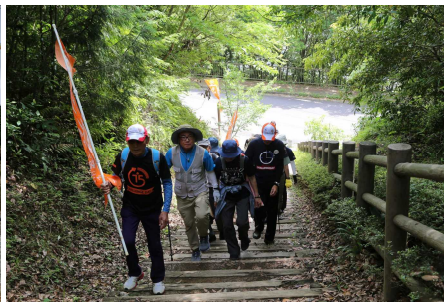
○取組2 アウトドア・プレイグラウンドとしての賑わいの創出

○森林や湖などの自然や地産品など地域の強みを活かした体験価値の提供

導入機能	具体例
湖面アクティビティ	カヤックやサップ体験
自然体験	星空観察キャンプツアー、子ども向けキャンプ体験
食の体験	人が集まる食に関するイベント（地元産食材ビアガーデン、田舎暮らし体験など）の実施、キッチンカー等の民間企業との連携
生物観察	バードウォッチング



湖面アクティビティイメージ



自然体験イメージ



自然体験イベントイメージ

○新たな賑わいの場の創出

導入機能	具体例
自然共生型アウトドア施設	ツリーイング ^{※1} やツリークライミング、ジップスライド等、ありのままの自然環境を最大限に活用した、集客性の高いレジャー施設を導入し、新たな賑わいの場を創出する。

新たな機能の検討	具体例
ドッグラン	会員制ドッグランなど、定期的に利用する施設を導入し、新たな利用者層による賑わいを創出する。

※1 ツリーイング：専用ロープと安全ベルトを装着して行う「ロープを使った木登り」のこと。



自然共生型アウトドア施設

（引用元：ツリーピクニックアドベンチャーいけだ）

ドッグラン

（引用元：長崎市あぐりの丘）

○取組3 アウトドア・スポーツを活用した地域活性化

○アウトドア・スポーツへの理解の促進

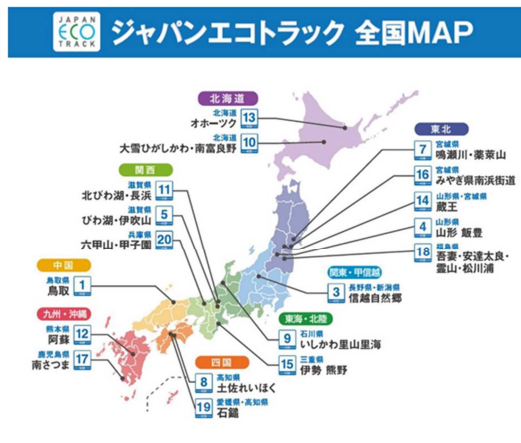
新たな機能の検討	具体例
人材の育成	アウトドアアクティビティガイドを行うことができる民間事業者との連携とガイド育成、専門スキルの取得
体験イベント	市民参加型ウォーキングイベント
公募型行為許可制度	公益性を確保しつつ、アウトドアメーカーなどの民間事業者のアイデアを活用したイベント等を行うことができる制度を創設し、アウトドアスポーツへの理解の促進を図る。
情報発信	メディアや SNS の有効活用。ターゲットに応じたパンフレットやガイドマップの作成



体験イベント、人材育成イメージ

○アウトドア・スポーツを楽しむイベントの開催

新たな機能の検討	具体例
広域イベント	新たなスポーツ観光ルート（ジャパンエコトラック等）の整備、新たなスポーツイベント（SEA TO SUMMIT等）の開催
サイクリングラリー	周辺施設を巻き込んで各施設で行う体験型スタンプラリーとサイクリングを組み合わせたイベントの開催
ウォーキングラリー	周辺施設を巻き込んで各施設で行う体験型スタンプラリーとウォーキングを組み合わせたイベントの開催
トレッキングラリー	周辺施設を巻き込んで各施設で行う体験型スタンプラリーとトレッキングを組み合わせたイベントの開催



広域イベントイメージ（大村市アウトドアランドデザインから転載）

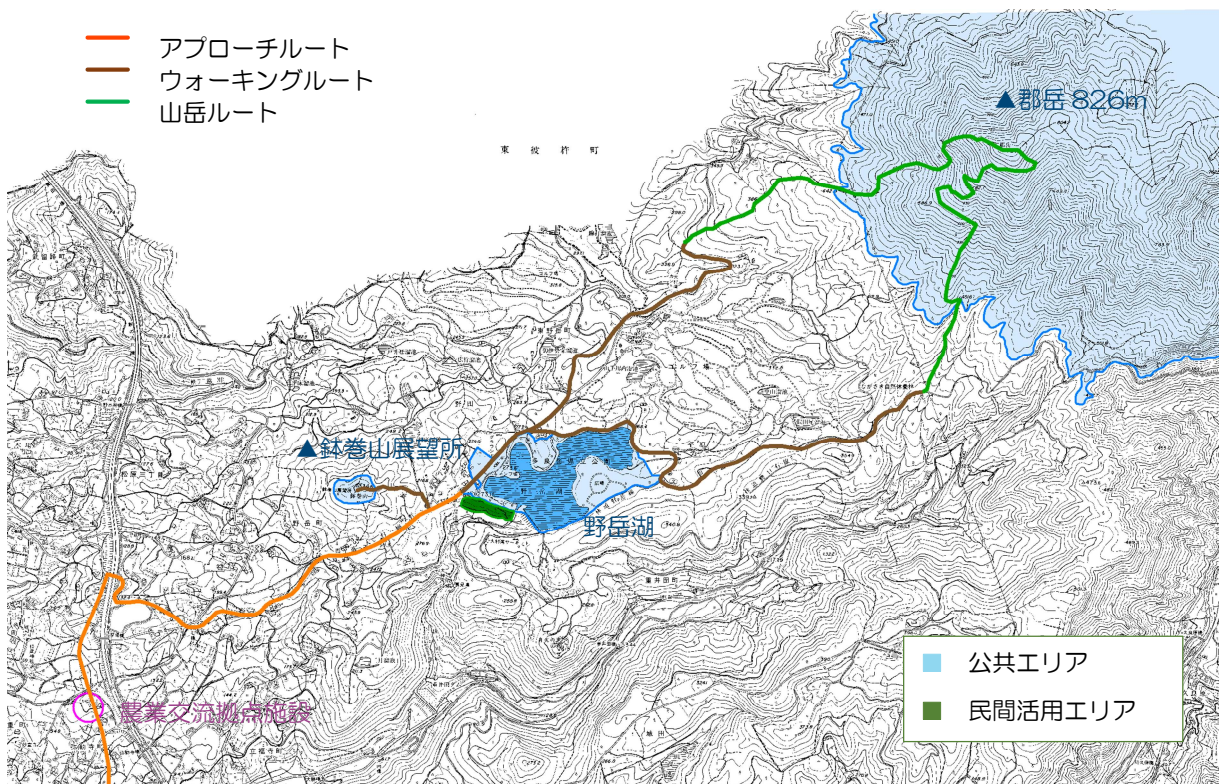
4. 事業スキームの方向性

野岳湖公園周辺地域を、公共エリアと民間活用エリアに、又、野岳湖公園を公共フィールドと民間活用フィールドに区分し、それぞれのエリアやフィールドについて、事業スキームの方向性を設定します。

■エリア分けの考え方

地域の別	エリア区分	エリア分けの考え方	想定する機能
野岳湖周辺地域	公共エリア又はルート	○公共による有効活用を図るエリア又はルート	<ul style="list-style-type: none"> ・山岳エリア ・山岳ルート ・アウトドアスポーツルート
	民間活用エリア	○民間活用による新たな魅力の創出を図るエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・自然共生型アウトドア施設
野岳湖公園	公共フィールド	○現在の機能を引き続き維持しながら、新たな魅力の創出を図るフィールド	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場 ・湖面アクティビティ
	民間活用フィールド又はスポット	○民間活用による新たな魅力の創出を図るフィールド又はスポット	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジターセンター ・物販 ・ドッグラン

■野岳湖周辺エリア区分図



■野岳湖公園フィールド区分図（巻末添付）

■事業スキームの方向性

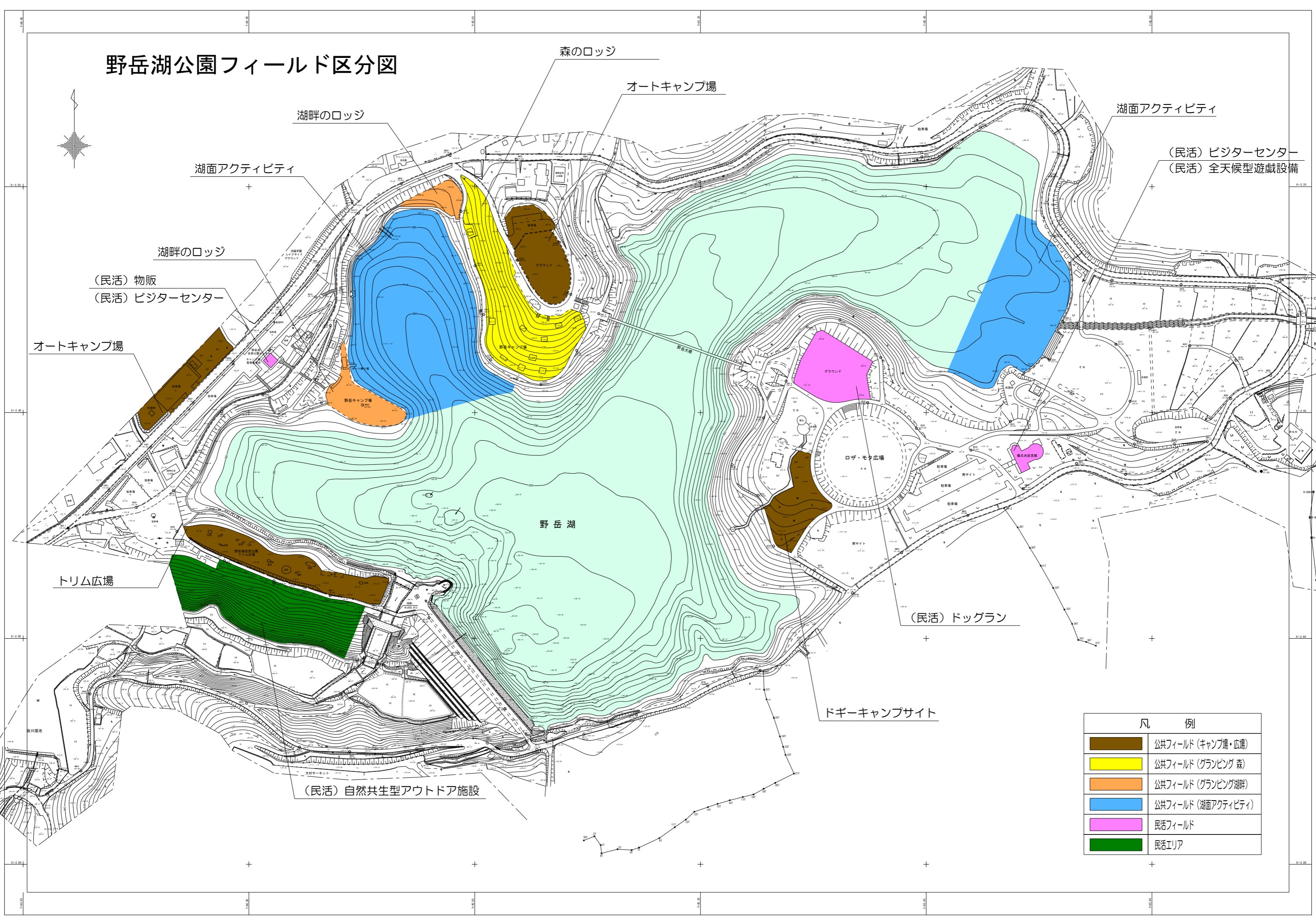
エリア区分	施設等の名称	想定する機能	事業スキームの方向性
民間活用エリア	市有林	自然共生型アウトドア施設	公設民営（プロポーザル方式）
公共フィールド	憩いの広場	オートキャンプ場	公設民営（指定管理）
	キャンプ場	グランピング施設（森のロッジ／湖畔のロッジ）、ドギーキャンプサイト	公設民営（DB、DBO ^{※2} ）
	湖面	湖面アクティビティ	公設民営（指定管理）
民間活用フィールド（スポット）	儀太夫記念館	ビジターセンター	公設民営（プロポーザル方式）
		全天候型遊戯設備	公設民営（プロポーザル方式）
	管理棟	ビジターセンター、物販	民設民営（管理許可）
	多目的広場	ドッグラン	民設民営（設置許可）

※2 DB（Design-Build）、DBO（Design-Build-Operate）：設計施工（管理・運営）一括発注方式のこと。

■事業期間の考え方

野岳湖公園リニューアルプランの事業期間は、実施計画策定後から10年～15年とすることを想定しています。また、社会情勢の変化や新たなニーズに柔軟に対応することとします。

野岳湖公園フィールド区分図



凡 例	
	公共フィールド (キャンプ場・広場)
	公共フィールド (グランピング 森)
	公共フィールド (グランピング 湖畔)
	公共フィールド (湖面アクティビティ)
	民活フィールド
	民活エリア